

第3回あいの風とやま鉄道富山駅高架下開発検討委員会

日時：平成29年3月21日（火）15:30～17:00

場所：富山県民会館611号室

○知事挨拶

（石井知事） 皆さん、こんにちは。本日、第3回目のあいの風とやま鉄道富山駅高架下開発検討委員会を開催しましたところ、座長をはじめ委員の皆さま、お忙しい中ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。また、座長をはじめ県外からおいでの皆さま、ご苦労さまでございます。

新幹線開業から早くも2年がたちましたが、新幹線に乗って首都圏からこの富山北陸にいらっしゃるお客さまは、依然3倍近い2.75倍ぐらいの水準となっております、これは大変ありがたいことです。また、富山県内でも、観光入込客数も地域により、またホテル、旅館の形態などによって少しまだらな点がありますが、2年目に入って、1年目よりむしろ3割、4割、5割と増えたといったようなところもありまして、依然全般的に好調ではないかと思えます。また、何より企業の本社機能の一部移転、研究開発センターの立地、大型商業施設や大型の物流拠点の立地が相次いでおり、大変ありがたい結果になっていると思えます。

ただ、この新幹線の開業効果を一時的なものに終わらせないで、しっかり持続させる。また、地方創生戦略をうまく活用して、富山県の新しい未来をつくっていきたいと思っています。そのためにも、大変注目度の高い、あいの風とやま鉄道富山駅の高架下空間を含めて、県都の玄関口でございます富山駅をもっともっと魅力的で賑わいのある場にしていききたいということなどがあり、この検討委員会を設置させていただいております。

これまで皆さまから大変貴重なご意見をたくさん頂きました。また、これまで駅利用者のニーズ調査も行っており、今回は3回目ということでもあります。皆さまから頂いたご意見を踏まえまして、あいの風とやま鉄道富山駅の高架下開発の方向性について、とりまとめ案、報告書案を作りました。この後説明させていただきますので、それぞれのお立場、大所高所から、また実効性のあるご意見をご提起いただければと思っております。

また、この検討委員会は本日を最後のとりまとめの会と考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上でご挨拶といたします。

○座長挨拶

（座長） よろしくお願ひいたします。先ほど知事からありましたように、大きなご異論がなければこれをとりまとめにしたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

それでは、次第に沿って進めていきたいと思ひます。まず、議事の（1）番です。あいの風とやま鉄道富山駅高架下開発の方向性についてという報告書（案）を事務局にとりまとめていただひていただきますので、事務局より説明をお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○議事

＜あいの風とやま鉄道富山駅高架下開発の方向性について(案) 事務局より説明(略)＞

＜JR 東日本における高架下・駅ビル等の開発事例について JR東日本より説明(略)＞

○意見交換

(委員) まだ考えがまとまっていないのですが、23 ページにエリアマネジメントの仕組みの重要性が指摘されているのですが、ショッピングセンターでもデベロップメント、開発センターといった全体的なマネジメントをしていく仕組みが作られていますので、駅構内においても、全体の統一性や全体のイベントや催し、プロモーション、やはり何をやっていくかという意味において、そこの中心的な機能を果たす役割を持った部署というか部が、本当に必要ではないかと思います。組織形態をどうするかという問題が非常に大きな課題になるのではないかと思います。株式会社的に全体的なマネジメント機能を持たせていくのか、組合的にそれぞれの意見を調整しながら調整を図っていくというような機能を持たせるか、エリアマネジメントの仕方について、今後どう詰めるかという課題があるかと思います。このような全体を方向付けして調整をしてマネジメントをしていく仕組みは、駅全体の統一性や事業の内容等を考えて、ぜひやっていくべきではないかと思います。具体的なことについてはこれから多分検討していく必要があると思いますので、ぜひこのマネジメントに関してしっかり詰めていただければと考えています。

(委員) 今、ご指摘がありましたエリアマネジメントの必要性は、まさに当然、実効性を鑑みると大事なポイントだと思います。ここで誰が主導していくのかを明らかにしていく必要があるのかなと思います。JR、あいの風さん、商業施設、さまざま民間企業がいらっしゃる中で、そこでは商業的なものや権利がさまざまに複雑に絡みますので、ぜひ中立的な立場で県が中心になって富山市さんと協力して、関係者と密に相談しながら進めていく、マネジメントの仕組みを誰が主導していくのか、少し明確に位置付けていかなければならないかなと。そのスタートが非常に重要かなと思います。

(委員) 今ほどのお話のとおりなのですが、商業施設等の例えば「とやマルシェ」「クラルテ」は、1つの建物としての総合力がなければいけないと思うのですね。例えば「クラルテ」などは、今のところ駅の中から見ると分かりにくい。ちょっと壁になっていますので、ああいったところは自然とお客さんが周遊して流れるような施設にしていかなければいけないのではないかと。これは他の商業施設も全て含めてですけど、流動性を持たせるように。全体としての建物の中の商業施設としての力を発揮しなければいけないのではないかと思います。

あと、観光案内所と総合案内所と2つあるので、これもできれば一緒にして、その中で案内と観光とを併設したようなものもあってもいいのではないかと思います。今、2つに

分かれていますから。

(委員) 報告書の中にも「富山らしさ」という文言が入っているのですが、今も駅構内にいろいろなテナントとかテナントミックスで施設が入っているのですが、私の見た印象かもしれませんが、それぞれがちょっと中途半端というところと怒られるかもしれませんが、やはり富山らしさという部分を。特に東の方のスペースが一番大きいわけですので、そのあたりで富山らしさというものを具体的に、例えば富山のイメージとして、酒とか水とか海産物とか、ちまちま置くのではなくて、強調して、露出量においてももっと目立つように。量とか質の部分においても、かまぼことか昆布とか日本酒においても、本当にお客がびっくりするくらいのボリュームというか、インパクトを持たせるような陳列。駅のコアになるような箇所を作って、ロコミで自然にその位置や名前が知られていくようなインパクトを駅の中に1つぐらい、富山らしいもので集積をつくっていただけないかなと。今、とやマルシェで少しは酒を飲んだり、味わったりすることはできるのですが、やはりお客へのインパクトはかなり弱いのではないかなと思いますので、アクセントを付けていただきたいと思います。

(委員) 先生の言われることに全く賛成です。私は富山県食品産業協会です。この会で何を言ったらいいのかということで事前に聞いてきたのですが、この方向性は結構素晴らしく出来上がっていますし、楽しみにしております。やはり富山の食の典型みたいなもの。今、先生がおっしゃったように目立つような何か、富山ではこういう食なのだというのが展示されて、なおかつ、それがその近くで食べられたりしたら最高かなと思っています。

(委員) やはりどのようにすればまた行きたいとか、あそこへまた行きたいとか、もう1回そこへ行きたいと皆さんがそう思うような見本というものが、私は金沢の駅を降りたときに、ここならまた次に来たいとか、何回来てでも見るものがたくさんあって、今度はあっちを見てこよう、今度はこっちを見てこようと思って、近いところにお手本があるような気がするのです。どうして誰もが富山を通過して金沢に行ってしまうのかなと。やはり金沢に行く人が1番多いといつも聞くものですから、やはりああいうところへ皆さんが行きたいというお手本があるのなら、少しぐらいまねてもいいから、今、言われたようにインパクトのあるような。やはりそういうものがあるから皆さんが行きたいのだろうと思うのです。ですから、金沢はこうなっていると。富山にはこういうものを置けばいいとか、こういうものがあるというものがあると思うのです。そういうところから、もっと近いところで、あまり頭の中で想像しながら、空想しながら、こうすればいい、ああすればいいではなくて、現実的にこれならできると、金沢にああいうものがある、みんなが喜ぶなら、うちにはここにこういうものがあると。立派な人がたくさんいらっしゃるから、考えればすぐ何か立派なものができるような気がするのです。ですから、あまりいろいろなことを考えるのではなくて、そういうところからヒントを得ていったらいいのではないかと思います。

やはり金沢は金沢で素晴らしいものを皆さんが一生懸命考えて出していらっしゃるのですから、金沢のいいものはここにあって、富山のものはここにあってということをや

り。その中から私はヒントは出てくると思うのですけれど、どうでしょうか。

(委員) せっかくの機会なので、識者の方々、皆さまに聞きたいと思っているのですが、今、あいの風とやま鉄道さんの方で観光列車を企画されているということで、平成30年度の後半をめどに企画が進められていると伺っています。富山駅を中心として現地発着という形の魅力的な観光列車というのをおつくりになるということで、それができれば観光の魅力の起爆剤になるのかなと思っています。そこでちょっと2点、もしご意見があれば委員の皆さんに伺いたいと思います。

まずこの観光列車と高架下の今回の開発、時期的には非常に近い部分があるのですけれども、こういったところのコンセプト、連携していくのがいいのかどうなのかみたいなどころ、連携を図るべきかどうかというところ。

2つ目が、その観光列車をつくるのはとてもいいと思うのですが、ただやはりもう世の中にはたくさん既に出ていますので、後発参入になるかと思うのです。インパクトある、魅力ある富山らしい観光列車というものを企画する上で、こういうところは留意した方がいいのではないかとか、こういった点を盛り込んだ方がいいのではないかとみたいなご意見をお持ちの方がいらっしゃったら。その観光列車と高架下開発というのが時期的に近いこともあり、もしかしたら連携を図ることで、さらに魅力の創出ができるのかなとちょっと個人的には感じたものですから、そのあたり、もしご意見があればお伺いしたいと思います。

(委員) ものづくり産業、伝統的な祭り、立山連峰などがありますが、伝統的な祭りと工芸品と一緒にストリートファニチャーを工夫してあげれば、もっともっと富山らしさが見られると思いますけれどね。

(委員) 私は一応高校生の親という立場で参加させていただいているので。高校生というのは地元民であり、若者であるということで、今、駅前にも大きな専門学校もできることもあります。そういった意味で、若者というのはやはり元気なので、安いものであっても買う気満々でいる子たちなので、やはりそういう子たちにとって少し魅力のある場所にしてあげたいなという思いです。

今、マリエには特に若い女の子たちが集まっていると思うのですが、それでも、先ほど言われましたように、若い子たちがみんな金沢へ行ってしまう。それはなぜかという、例えば金沢は昔は香林坊とか堅町ですか、あの辺へ若者が行っていたのが、フォーラスができ、さらに今、Rintoという、金沢の駅の中にある商業街が一緒になることで、もうあそこに行けば何かいいものが見つかるかもという思いで、今、若い子たちはそこへみんな集まるのだと思うのです、富山の子たちも。そういった意味で、何か街に1つというのはちょっと中途半端だったりもするものですから、もう1つ周辺に何かあって、ここに行けば何かあるよという施設が意外に富山市の中にないような気がしています。そういうものを富山駅というか、あの周辺に生み出すという意味で、この高架下というものを少し考えられたらいいなと思います。これはあくまでも若者目線です。

もう1つは、先ほど食べ物という話がありました。私はよく観光へ行ったときに1番思

うのが、観光名物だよと売られたものではなくて、その土地の人たちの食生活の中に入ってみたいという。例えば市場へ行ったりとか、そういう思いがあるからそういうところに人が集まるのだと思います。やはり高架下を開発するときに、観光客が相手なのか、地元が相手なのかと考えるときに、何となく地元の人にも少し行きたいという気持ちが表れるようなところと思うと、例えば今、富山のいろいろなところに地場物屋さんみたいなものなら少し地元の人も行き着く。その中に観光客もいたら、観光客の方は「あ、こんな楽しいものあったわ」と言ってもらえるような、何か地元の生活に観光客の方が入ってくださるような感覚、目線での食べ物のお店というか、空間があればいいなと思ったりしています。

最後ですが、この間長野の駅へ行く機会がありまして、善光寺口へ行ったときに、ものすごく大きい柱が立っているので、すごいな、何となく長野らしさを感じるなと思って見てきました。今、このJR東日本さんの資料の写真に出ていた、それ以外の細かい部分は全然目に入らなかったのです。やはりちょこちょこことあってもなかなか目に入らないなと思いました。そのときに、富山では何があるのだろうと思った際に、見る側だけではなくて、何か高岡の駅でやっているような音の風景というのもとてもいいなと思いました。今どきの駅は昔のように車掌さんのアナウンスでガーガー案内するようなイメージではないので、先ほど富山県の伝統工芸の話がありましたが、世界に誇る大きな鐘、梵鐘を生み出している土地でもあるので。例えばスタバは世界一美しいスタバということで人を動かしたように、こういった世界一きれいな梵鐘の音が聞けるよみたいな、ビッグベンのような平和の鐘を聞けるような駅はすてきだなと思ったのです。そういうところが今はやりのパワースポットの動きにつながってくると若者にとっては楽しいかなと思ったりしました。

(委員) 今、地元向けというのは非常に大事な視点だと思うのですが、この報告書の中で、エリアでいきますと西部エリア、東西自由通路エリア、東部エリアとありますが、地元客向けと観光客向けで東西の開発エリアをすみ分けるといようなご解説があるように捉えておりましたが、西部エリアの方であれば工夫していただきたいなという点が1つあるのです。現在クラルテがありますが、私はここもたびたび使わせていただくのですが、路面電車の線路を挟んで、メーンの改札口から行きますと、ちょっと見えにくいことが、今でも少し気になっているのです。これから西部エリアを開発される点において、できればやはり観光客の方も、地元の人が行く店が今観光客が魅力を感じるという傾向がありますので、できれば視認性の高い工夫をしていただけたらいいなと非常に強く思いました。

私は個人的にはこの駅は富山らしさがあり、長期的にも誇れる駅になるのではないかとわくわくする点は、この路面電車が駅の中を通っていくということです。これは非常に誇らしい設計になると思います。ある意味これが分断するという見方もありますが、ここは何かすごく誘われるゲートでもあるという感じがするのです。ですから、これから開発にあたっては、路面電車を挟んだ西部エリアにおいては、すごく引かれる、誘われる工夫をしていただければと強く思います。それは見通しもあるでしょうし、光の工夫かもしれないし、そのあたりをこれからもぜひちょっと考えていただいて、とにかく視認性に配慮していただければと思います。

(委員) 観光の面でちょっと申し上げますと、既によくまとまった報告書なので言うことは少ないのですが、観光案内所に限定しますと、やはり分かりやすく近い場所で、今の段階では総合案内所は非常に寒い場所に立地しています。一方の観光案内所の方は暖かいけれども分かりにくいと。それを合体した形で今後まとめるわけなので、できれば暖かくて座れて、お年寄りの方がちょっとゆったりしながら、観光案内所でご案内を受けられるという施設を造っていただく方向にまとめていただけるといいなというのが、1つ大きなものとしてあります。

それと、先ほど少し話が出ましたが、全体的にいろいろな協議をしなければいけない課題がたくさんあるかと思っているのですが、この先、方向性は出てきたので、それぞれ誰が中心になってやるかと役割分担した上で、富山駅の場合、1番心配なのが、工事用作業車が入るルートが限られていますので、短い期間にいろいろな作業が入ってくると非常に厳しい場所だと思っています。ぜひスケジュールを関係者の方々にご協力いただいて、何とか高架が期限に仕上がって、南北がつながった段階までに完成形をもってこれるような形にしていればいいなと思っています。

(委員) 今、お話しされましたとおり、特に西部エリアですが、今のクラルテ自体は、視認性の点において、ちょっと信頼をなくしているなど。この後ろ、それからいきますと西部エリアも、よほど魅力あるものにしないと、ここの場所が生かすきれない。ただし、この西部エリアがすごいインパクトが出れば、クラルテも非常に大きな集客力を増す。先ほども言いましたとおり、駅に入って見通しの方も案内もしやすいようなことも1つ考えていただくということと、地場物ではないですが、富山の生活に密着したようなものの魅力のある、地場物の発展的なものを考えたような形の方が、地元民は電車で通勤される方も多いと思いますので、そういった商品を考えるということも1つの方法ではなかろうかと思っています。

(委員代理) 方向性としてはこれでいいのではないかと考えております。ただ、さっと見て、これで何回か議論もされたと思いますが、できればミニイベントやミニコンサートなどができるようなエリアというか、空間を設けてもらった方がいいのではないかなと思いました。

それと、外国人向けのいろいろな分かりやすい表示などがあつたと思いますが、将来、東京オリンピック等々がある中で、外国人観光客をもっと呼び込めるような仕掛けとか、そういうものがあればもっといいのではないかなと、率直な感想として思います。

(委員) やはりこのエリアは西部、東部だとか、東西自由通路とありますが、私が思うのは、例えば富山らしさということになりますと、これは観光客になるのではないかと思うのです。例えば何か観光バスが来たぞ。それなら東部エリアへ行ったらいい、あるいは西部エリアへ行ったらいいと。地元だったらここと何かそのように分けないと、富山らしさはなかなか地元の方も観光の方も一緒にぐちゃぐちゃにするというのは大変難しいと思うのです。何かその辺、きちっとしたいろいろなものでインパクトを与える格好にした方

がいいのではないかとこのような気がしてならないのですが。

例えば観光で来られた方に、「こちらへ行かれた方がいろいろなものがありますよ」「いや、他のところを見てください」と言うよりも、観光客を相手にした場合、あるいは通勤客なり、日ごろあいの風を利用しておられる場合と、何かちょっと分けてやってもいいのでは。というのは、昔ですと、やはり通勤客などで須田ビルなど、昔は闇市と言っていました。が、せっかく富山へ行ったなら帰りにちょっとあそこで安い魚か何か買ってきただろうかと。あるいはまた、車に乗って駅の方まで行ったとか、いろいろありますから、何かそういう特徴あるようなものをしないと、総体的に富山らしさというのも難しいと思うのです。本当に富山はこれだというような何かそういうものがあれば私はいいと思います。

(委員) 今までの意見がこの中に本当に詳しくまとめられておりましたので、まずありがとうございますと申し上げたいと思います。

私は利用者という立場なのですが、昨年、老人クラブの全国大会がありました。県知事さんにもご来席いただき、祝辞を頂きました。その中で、全国から約1300人の会員の方がおいでになりました。飛行機でいらっしゃる方もおられましたが、ほとんどが電車を使って来られました。その方たちが言われるのが、女性委員の人たちは、ほとんど全員が「富山って本当にいいところだね」と言われました。そのいいところというのは、列車で東京の方から来れば、左側に立山連峰、右側には日本海と、「本当に素晴らしい県ですね」と、それだけ褒めていただいたことによって私は本当にうれしく思いました。

先ほど立山連峰を題材とした宣伝をという話がありましたが、私はやはりこの立山連峰、おいしい富山湾のお魚、そういうものをメインにしたお土産をたくさん売って、というのは「どこでどういう買い物をしてお土産に持って帰ればいいかな」ということをたくさんの人から聞かれました。それで「では1番分かりやすいのでしたら、富山駅に行って、とやマルシェに行くと、鱈寿司もあるし、かまぼこもあるし、いろいろなものがたくさんありますから、そこでどうぞ買って行ってください。わざわざ遠い所へタクシーに乗って買いにいかなくても、あそこでまとめて買えばいいですよ。たくさん買って行ってくださいね」とお伝えしましたら、喜んで「では買っていきます」というようなうれしい言葉を聞きました。そういうことで、やはり富山駅でなければ買えないというものでもないですが、そこで旅行客にまとめたお土産がしっかり売り場としてたくさんそろえていただければ、皆さんがとても喜んでくださるのではないかと考えています。

(委員) 私は地元富山市の副市長ということではありますが、ここの席に来ていますが県の市長会のご推薦を頂いて、ある意味、地元というよりも富山県下の市長会の代表という趣旨で参っております。今回は非常にうまくまとめていただいて、書いていただいていることは大変ありがたいと思っています。

富山市の中心でもありますが、どちらかという富山県全体の入り口、ゲートウェイとしての富山駅ということだと思っていますので、今回の高架下開発の方向性の中にも富山駅の賑わいの県下全域への波及ですとか、あるいは具体的な話としては、県都の玄関口にふさわしい、案内できる機能の整備をするということをしっかり書き込んでいただいていますので、ぜひそういうことをこれから具体的に詰めるにあたって認識していただければ

と思います。そういうことで、先ほど委員からも観光列車の話がありましたが、富山県全体の沿線市町村の情報等もうまく駅とコネクしながらやっていくといいのかなと思っています。

そういう意味で、今回の資料は非常にうまく書いていただいたなと思っているのですが、今後具体的に詰めていくにあたって、ちょっと地元っぽい話なのですが、先ほど6ページで具体的な図面が出ていて、西部エリア、東西自由通路エリア、東部エリアとありました。富山駅の特徴は、やはり新幹線を降りても、それからこれから在来線高架化すると、降りてすぐに路面電車が正面にあるというのが1つの大きなインパクトだと思います。歴史的なものでもないの、なかなか富山らしさということここはあまり出てこないのですが、富山市は今、一生懸命南北接続事業をやっている、高架下にこのように二次交通が乗りやすく、スーッと低床の路面電車が入ってくるというのはなかなかない光景だと思いますので、これをうまく富山らしさに加えていただいてPRできるといいなと思っています。

この高架化に併せて、現在、富山ライトレールという港側に行く列車の待合室や定期券、グッズを売るようなお店というのが、駅の北口のところに小さいものがあります。その機能も高架化するにあたって、どこか利用者の方の利便性の高いところに定期を買ったりするようなどころも必要になります。西部エリアという所に少し書いていただいています。待合スペースがどれくらい要るかとか、そういうこともこれから要るのだと思いますが、そういったグッズを売ったり、定期券を買ったりするような利便性の高い窓口。特にこの西側の方は先ほどから視認性の話も幾つか出ていましたが、西口の交通広場というのがこちらの方にありまして、一般車が乗り降りされるのはこちらからなので、一般の方が新幹線に乗るときはこちらから来る方も結構いるのではないかと思います。ですから、このルートを非常に大事にしながら、西部エリアも地元の方のアクセスの窓口になると思いますので、うまく使っていただければと思います。

路面電車を降りると、新幹線を降りてすぐ富山はガラスの街でもありますので、ガラスがキラキラする「トランジット・ライティング・ウォール」があって、それのおかげで向こう側が見えないという話なのですが、北側の方も同じように高架下の所は色はまた変わってくると思うのですが、そういったものをつくっていく予定にしています。そういうものも踏まえた上で、西部エリアといかにうまくつなげていくのかということこれから議論していくのかなと思っています。

(委員) 私は舟橋村から参っています。富山地方鉄道の越中舟橋駅に図書館と一体となった駅舎、この駅舎には親子連れが電車を利用して来られるということもありますし、図書館でコンサートを行ったり、作品展示を行ったりということをやっています。やはり特徴のある形のものが1番必要ではないかと思っています。

それと、個人的には、高校生の方が今、通学で利用されているのだと思うのですが、将来的にも、この方々が富山駅を利用される方になっていくのだろーと思います。先ほど委員もおっしゃいましたが、若者が集える仕掛けというのは1番重要なのではないかと思います。具体的なことはよく分かりませんが、若い人たちがそこへ来れば何かあるという期待感を持てるような仕掛けというものが必要ではないかと思っています。当然、若者は将来親子連れということになっていくわけですので、ぜひともそういうところに配慮していただ

ければと思います。

(アドバイザー) アドバイザーという立場から一言お話をさせていただきます。今回の各エリア、西部エリア、東西自由通路エリア、東部エリア、それぞれ非常に魅力的な空間ではあるものの、面積的にはやはりちょっと小さいというか、それからメーンの動線から離れている部分もあるということで、各エリアをどう有機的に結び付けながら、先ほどのお話にもありましたが、全体を一つの建物としてどう魅力付けをしていくのかということが非常に重要ではないかと思います。各エリアを結んでいるのは東西自由通路であったり、南北の自由通路であったり、南側には駅前広場があるということで、それぞれ管理している主体がいろいろなのですが、ご指摘があったようなエリアマネジメントのように組織を通じて、各主体が有機的に連携をして、その各エリアがかぶることなくといいますか、それぞれの魅力をしっかり発信して、全体として一つの魅力的な商業施設のようにしていくことが、観光客の方から見ても魅力的ですし、地元の方から見ても魅力的だというような空間になっていくのではないかと思います。

(アドバイザー) 今のご意見と一緒に、それは委員からもあまり私が紹介したものが気付かれないからということで、まさにそのとおりで、実は気付かれないものが多いのです。本当にそうなのですが、発信するものはいろいろ実験しながらやっているのですけれど、なかなかやはり、見に来られる方も意識して見ないとなかなか分からないところがあります。ただ、先ほどおっしゃった、長野駅前の大きな柱は誰が見ても分かる。確かに柱だからといって、長野らしさではないのですが、ああいう庇もあると何となく長野駅っぽいという感じがして。そういう発想から、駅からいろいろ発信しようということでやっているのですが、おっしゃるとおり、まだまだ足りないところがあるので、もっと改良しなくてはいけないと思っています。

そういう意味でいうと、この富山駅は先ほどから出ているエリアマネジメントは、多分今、見ても空間はすごく大きくて、路面電車も入ってきて、材料はいろいろそろっているのですが、やはり何か全体としての統一感が少なく、先ほどお話があった世界一美しいスターボックスでもいいのですが、もう一押しあると非常にいいものになるのではないかと思います。ぜひ皆さんで集まっていただいて、よそのエリアはなかなか口を出しづらいところもあるかと思いますが、それはちょっと置いておいて、富山のためにみんなで何ができるかということに関係者が現地で集まって議論すると、あそこにもうちょっとこういうお店があったらいいのではないかと、こういうのがあったらいいのではないかと言い始めると、いいのができてくるのではないかなと感じました。

同じように、私どももいろいろ苦労してきて、東京駅の中でも私どもの会社だけでもすごい数があるものですから、同じような組織を作って、駅をどうやって経営していこうか、あるいはどうやってイベントをしたらいいかというのはいろいろ議論しながらやっていますので、時間はかかると思いますが、みんなで集まって、こんなことをしたらお客さまにとっていいのではないかと、あるいは高校生向けにいいのではないかとということを議論しながら上げていくことが一番大切かなという感じがします。

先ほど委員さんから出ていました観光列車ですが、当社もいろいろなものをやっています。

して、この5月には「四季島」という私どもが乗れそうにない電車が走ります。あれはちょっとレベルが違うので、一応上野駅にラウンジというのを特別にしつらえて、その人たち専用のラウンジがあるのですが、その他の例えば新潟では、「越乃 Shu*Kura」という日本酒をテーマにした電車が走っていたり、あとはフルーツ、青森の方だといわゆるレストラン列車が走ったりというのがあるのですが、あまり駅舎自体がそれに連動しているかという、そこまであえてしていません。やはり列車の運行自体の方が楽しいというものもあり。若干、ちょっとしたグッズ売り場などはあってもいいのかもしれませんが、駅舎全体がそれというのはちょっと。毎日走っているわけでもないでしょうから、そこまでこだわる必要もないのかなという感じもします。

逆に変わったところでいうと、当社ではないのですが、三陸鉄道で、NHK でやっていましたが、盛（さかり）駅などは、駅というよりは駄菓子屋さんみたいな感じの駅舎になっています。あれはあれで何かすごくいいなという感じはするのですが、あれもどちらかというと地元向けというよりは、いわゆる観光客というか、たまに来るお客さん向けのお店なので、それについてはあまりこだわらなくてもいいのかなという感じは個人的にはしています。

（委員） 今回のこととは全く関係ないかもしれませんが、ハード面で実は鉄道ファンの方々が特に言われるのですが、この富山駅は本当にすごくなると。要するに新幹線、あの風が走っていて下にトラムが走ると。Nゲージは皆さんご存じだと思うのですが、Nゲージの電車の模型をよく家で作っておられる方がいらっしゃいますが、とてつもなく格好のいい駅というか、そういうNゲージの模型になるということです。それだけでも結局富山というのは、すごい駅ができるのだなということで、新幹線が開通して1回盛り上がって、平成31年にまた盛り上がるのではないかと思って、すごく期待をしています。鉄道ファンの方がいつも「何かあったらすぐ言ってくれないかな」ということを言っていましたので、そう思います。

1つ質問があるのですが、東部エリアの「とやマルシェ」と対面している、将来的に北面と東面は歩道に面する予定があるとありますが、これは平成31年頃には既に北からも東からも入れるのでしょうか。

（事務局） まだ難しいのではないかと思います。

（委員） 私は最近いろいろな駅に行く機会があるので、それとここを比べてどうかということを考えてみたときに、例えば京都駅を思い浮かべると、行く気もないのに周りに店があるので入ってしまうという感覚で、改札から大して出ていないうちに買い物させられているようなイメージがあると思います。今、富山駅を見たときに、今回これにあまり詳しく出ていないのですが、例えば東部エリアに行きたくても、在来線は反対側で降りてぐるっと回らないと行けないですね。西部側で降りて、ぐるっと回らないと東部エリアへ降りられない。

あるいは、私もこの委員をやるにあたっていろいろな方に聞きましたが、せっかく新幹線を降りても、「あの『とやマルシェ』はみんな分からんよ」と言われるぐらいに、結局新

幹線のエスカレーターを降りると、本当は「とやマルシェ」に行くエスカレーターがあるのですが、ほとんどそこへ降りていかれる方はおられなくて、まず大きい改札口へ行かれて、そこを出て、「あれ？ 何もないぞ」という感じになると思うので、例に出した京都駅のように、改札を出たら自然に目に付いたから欲しくなる感覚というのは、すごく大事ではないかと思います。先ほどエリアマネジメントと言われましたが、導線をうまく自然にそちらへ、ただ降りていったらあったわ的な感覚を作り出せるようにしたらいいなと思っています。

あと、これは完成する前の話なのですが、高校生の女の子のお母さんから、東西の通路が大変に狭いと。出来上がればきれいに明るくなるのだろうけれど、「ちょっと暗くて危ないわよね」という意見を頂きました。私も実際に通ってみましたら、ガラスの飾ってある所だけは明るいのですが、通路自体は本当に夜は暗いのです。少し明るく安全にしていたら、完成までのことですが、うれしいなと思いました。

(委員) 今の議論から飛ぶのですが、今、新幹線を降りますと、情報発信のビジョンの横にさりげなく富山湾鮭があるのです。皆さんご存じだと思うのですが、サンプルがあるのです。私は来るたびに改札の手前で、「ああ、これはおいしそうだな、食べなきゃ」と思って、食べないで帰るときは、「あら、食べて帰らなかったの？」と何か言われているような気がするのです。

やはり何か情報発信するものは非常に重要なと思うのですね。春に来た人は秋に来てほしいし、冬に来た人は自然のいいときにも来てほしいと。そういうことになると、この駅全体が、私は「鉄子」なので、非常にわくわくして、すごく期待しているのですが、この駅は何か劇場のように感じるのです。そうすると何か、先ほどお話があった仙台のエモーショナルな情報発信は、ちょっとビジョンがあって、そこで自然に人が情報を受け取っていけるような、何か劇場として伝えていくようなものがどこかにあるといいかなと思います。待合室なのか、あるいは改札を降りて電車を乗り降りする時間を待つ人か、あるいは高校生が時間をつぶしている、どちらにしても時を過ごすというような大きな役割があるので、どこかに、すぐ役立つための情報発信の方法も大事なのですが、何か富山にまた来てくださいというような情報発信を。ビジョンか何か、中心的な役割を果たす場所に、必ずしもなくてもいいのかもしれませんが、待合室というような区切られた所なのか、あるいは壁面なのか、伝えられたらいいなということ強く感じています。設置場所については、今段階的に工事をしているので、どこが適切かはなかなか即答できないのですが、そのあたりを工夫していただけたらと思います。

(委員) いつも思うのですが、富山駅は寒いです。何とか暖かくした方がいいと思います。風通しがいいのだろうと思いますが、見通しが良くて暖かくなるような方法をとるべきだと思います。

(委員) 今の意見と同意見です。私も2月に新幹線で東京へ行かなくてはならなかったのです。それで、相手の方が来られるまでエントランスホールで待つのがとても寒くて、駅員さんに「どこに行ってお待たえてほしいですか。ここは寒くて風邪を引いてしまう」

と申しましたら、駅員さんが「あそのセブンイレブンのコンビニの前がまだ暖かい」と言われて、行きました。行っても、結局、右から左への風通しがとても良くて、かえって寒いくらいの、風の通路になっているのです。それでやはりあそこへ来られた人が言われるには、ここは電気代も高くつくから駄目なのかもしれませんが、「自動ドアで仕切って、人が入れば閉まる。そうすると暖かくなる。これはあそこにドアがないから風通しがいいのだ」ということです。とても寒い思いをしまして、これが何とかならないかなと思いました。

(委員) 今回の検討委員会で取りまとめをしていただいた中身については、いろいろなエリアごとの要望、あるいは採算のバランスもちゃんと配慮しながらするという事なども含めて、当社がお話しさせていただいたものを取り入れていただいています。また、委員の皆さんからいろいろご意見やお話、ご提言があったものもうまくりまとめていただいたと思っています。

今回もここに記載されていないいろいろなご提言もありましたし、われわれはこれからとりまとめられたこの高架下の開発の考え方や構想に沿って、今後、当社は基本計画を策定していきたいと思っています。限られたスペースでもありますし、皆さんのいろいろのご意見全てを網羅できるかどうかは非常に難しいところもあるとは思いますが、ご提言いただいた内容に沿ってしっかりと基本計画を作って実行に向けて進めていきたいと思いません。

ただ1つだけ、先ほど来お話がありましたように、エリアマネジメントの効果など、駅はあいの風だけで決めていけるものではなくて、エリア全体にかかること、東西自由通路の活用の仕方など、皆さんと一緒に、関係者の皆さんと調整しなければいけないようなことについては、どうしても当社だけでは進めることが難しいところがあります。そういう点については、県、あるいは関係者の皆さんの協力が必要になると思いますので、ぜひその点は今後ともご協力をお願い申し上げたいと思います。しっかりとこのスペースを富山の顔となるような、そして県民の皆さんはもちろんですし、富山に来県なさった方々も含めて、皆さんから利用される、支持されるような、そういうエリアにしていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(座長) どうもありがとうございます。今日ご欠席の委員からご意見を頂いています。下の方に1枚だけ入っていますが、多言語化ということでこれも報告の中に載せていただきたいと思えます。よろしいでしょうか。

それでは、最後に石井知事からコメントを頂きたいと思えます。

(石井知事) ありがとうございます。今日はもちろん最終回ですから、いろいろご意見を頂けるものと期待していましたが、期待以上に皆さんに貴重ないろいろのご意見を頂き、本当にありがたいと思えます。

今後、特に高架下、あいの風さんにここをやってもらう部分が多いのですが、それはそれとして、最後にあらためて出たエリアマネジメントの話は、委員の皆さんがいろいろおっしゃったとおりで、やはりこれは大事なことです。あいの風社長もあいの風だけでは駄

目なので、県や他のところでというお話もありましたけれども、ここはあいの風鉄道、JR西日本さん、富山地铁さん、みんな関係するのですが、お話に出たように、中立的立場というところですが、先ほど副市長も言われた「県全体も考えてやってほしい」ということで、こうしたエリアマネジメントは、例えば富山県が、もちろん富山市さんと協議しながら、あいの風鉄道、JR西日本さん、地铁さん、関係者と連携協力してやっていくということかなとあらためて思いました。そういった点ではまた汗をかかせていただきたいと思っております。

それから、皆さんそれぞれ大変いいご意見を頂いたのですが、何人かの方からご指摘がありましたように、あまりきめ細かなものがちまちまと出るのではなくて、やはりボリューム感とかインパクトを持たせる、印象に残る、そういったことも必要だという点もなるほどそうだなと思います。また、富山らしさというときに、もちろんお話に出た立山黒部、それから世界で最も美しい湾クラブに加入承認された富山湾の魅力、特に新鮮なお魚の魅力、こういったものをしっかり活かしたようなものになるように。これは特に東部エリア、西部エリア、東西自由通路、この辺のところはまたあいの風さんなどともご相談して、今のご指摘がなるべく生きるようにしないといけないなと思います。

また観光列車関連のお話もありましたが、これはまたあいの風さんがいろいろ観光列車について今相当検討を進めていらっしゃるはずだと思います。相当工夫をしているプロジェクトですから、またご相談をして、今後の富山駅の高架下の開発とももちろん関係すると思しますので、取り組んでいきたいと思っております。

また、何人かの方から、高校生や若い人が結構金沢に行かれる方が多い、そういうものもしっかり参考にしてやったらいいのではないかというのも、それはごもっともであります。金沢もすてきだと思いますが、富山にはまたよそにはない素晴らしいものがいっぱいあるはずだと思いますから、ぜひ。工事が途中なものですから、どうしても行き届かない面もあるのですけれども、しっかりと最終形がすっきりとしたものになるように、皆さんと一緒にまた努力してまいりたいと思っております。

それから、先ほど周辺の道路がいつごろできるのかというお話もありましたが、ライトレールに関連する北側の入り口の方は、これは富山市さんともご相談しているわけですが、JCさんの全国大会もあるようですから、平成31年の夏ぐらいまでには少なくとも人が通れるようにはしたいと思っております。そして、できるだけ年度末ぎりぎりではなくて、なるべく早く、ライトレールは南北に通過できるようにしたいと思っております。それから東側の方は、結局高架下の工事が終わらないと最終的な道路の接続ができないのですが、途中まではもう既に道路ができていますので、これは32年中、なるべく早く道路が駅につながるようにしたいなど、この辺はまた富山市さんなどともご相談していないといけないと思っております。

それから、いろいろ大変貴重なお話をたくさん頂きました。富山らしいお土産物もぜひそろえなければいけないと思っております。京都駅の話も出ました。気が付いたら買い物をしていただければ1番いいかなと思います。今までの富山駅は、いろいろな構造の問題などありますが、最後の方に出了ように、私はこの連続立体事業を、富山県また富山市さんのご要望もあり、いろいろな経過があつてやることになったのですが、これは本当に国交省にも理解いただいて、補助事業の採択基準を変えてもらいたいというようなこともや

ってきました。これは座長も時折おっしゃっていますが、非常に持っていき方では世界でも稀有な素晴らしい空間になると思っています。その途中経過について、皆さん必ずしも期待どおりになっていないものもあるかもしれませんが、ぜひそうした思いで頑張っていきたいと思いますので、これからもよろしくご協力、ご支援、もちろんご叱責も賜ればと思います。まだいろいろありますけれども、以上といたします。よろしくをお願いします。

(座長) ありがとうございます。今、石井知事からもお話がありましたように、報告書の中に、例えばエリアマネジメントに関しては誰がやりますというあたりですとか、今日頂いたご意見も、大半は特色やイベント、情報発信とか、寒いというの、部分的というよりは駅全体で考えなくてはいけないことですので、エリアの価値を上げるためのマネジメントをぜひやっていくようなことで、少し報告書に加筆修正をお願いしようと思います。

また、西部エリアの視認性、あそこに何か魅力的なところがあるということがうまく伝わるように、工夫みたいなものも何かしていかないといけないと思います。その点に関しても若干の修正をお願いしようと思います。それが今日の委員の皆さま方のご希望だと思います。

ということで、今日頂いた意見を基に、今のようなところを中心に事務局に修文をしてもらおうと思いますが、最終的な文案につきましては私に一任ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは座長一任ということにさせていただきたいと思います。

それでは、本日の検討委員会の議事については終了とさせていただきます。皆さまのご協力で、昨年8月から3回にわたって検討委員会を無事に終了することができました。どうもありがとうございます。

それでは、事務局に進行をお返ししたいと思います。

○閉会

(司会) 座長、どうもありがとうございました。本日、皆さまに頂きましたご意見を踏まえ、座長のご指示の下、必要な修正をさせていただきたいと存じます。なお修正の最終版を作成しましたら、後日委員の皆さま、アドバイザーの皆さまにお送りさせていただきます。

それでは、以上をもちまして、第3回あいの風とやま鉄道高架下開発検討委員会を終了させていただきます。委員、アドバイザーの皆さまにおかれましては、昨年8月から3回にわたり、ご熱心にご議論を頂きまして、誠にありがとうございました。